

ヨハネ11章 「あなたの愛する者が病気で」

2章	カナの婚礼	2018/06/07
3章	夜の訪問者 ニコデモ	2018/09/16
4章	真昼の井戸端会議 スカルの井戸	2018/10/17
5章	ベテスダの池	2019/03/17
6章	5000人の給食	2019/04/28
8章	石を投げられるべきは	2019/06/30
9章	シロアムの池	2019/09/15
10章	羊の門	2019/11/23
11章	あなたの愛する者が病気で	2019/12/15

ヨハネ10:31 ユダヤ人たちはイエスを石打しようとして、また石を取り上げた。

ヨハネ11:3そこで姉妹達は、イエスの所に使いを送って言った。「主よ、ご覧下さい。あなたが愛しておられる者が病気で。」

ヨハネ11:4 イエスはこれを聞いて、言われた。「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです。」

ヨハネ11:6 そのようなわけで、イエスは、ラザロが病んでいることを聞かれたときも、そのおられた所になお二日とどまられた。

ヨハネ11:7 その後、イエスは、「もう一度ユダヤに行こう。」と弟子たちに言われた。

ヨハネ11:8 弟子たちはイエスに言った。「先生。たった今ユダヤ人たちが、あなたを石打ちにしようとしていたのに、またそこにおいでになるのですか。」

ヨハネ11:15 わたしは、あなたがたのため、すなわちあなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいますが、彼のところへ行きましょう」

ヨハネ11:16 そこで、デドモと呼ばれるトマスが、弟子の仲間に言った。「私たちも行って、主といっしょに死のうではないか。」

ヨハネ11:21 マルタはイエスに向かって言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」

ヨハネ11:22 今でも私は知っております。あなたが神にお求めになることは何でも、神はあなたにお与えになります。」

ヨハネ11:25 イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」

ヨハネ11:26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」

ヨハネ11:31 マリヤとともに家にいて、彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がって出て行くのを見て、マリヤが墓に泣きに行くのだろうと思い、彼女について行った。

ヨハネ11:32 マリヤは、イエスのおられた所に来て、お目にかかると、その足もとにひれ伏して言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」

ヨハネ11章34節 イエスは、・・・霊の憤りを覚え

Ιησοῦς ἐνεβριμῆσατο

イエスウス エネブリメサトウ

過去で変化していますが 原型 ἐνβριμῶμαι エンブリマオマイ

ヨハネ11:39 イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだ人の姉妹マルタは言った。「主よ。もう臭くなっておりましょう。四日になりますから。」

2013年1月22日 ベタニヤへ行こう ベック兄

先ほどの二人の姉妹の弟ラザロを、ちょっと見てみたいと思います。彼はイエス様に愛されましたと、はっきり書かれています。ラザロについて書かれているヨハネの福音書11章の一番初めは、「一人の病人がいた。それはラザロである。」という文章で始まっています。どうしてイエス様は、ラザロが病気になることをお許しになったのでしょうか。ラザロは心からイエス様を愛し、またイエス様は心からラザロを愛しておられたのに、何故ラザロは病気になったのでしょうか。

その時のラザロを想像してみましょう。ラザロは病の床に倒れました。したがって、だんだん衰弱してきます。けどイエス様は来られませんが、頼まれたのに。

「もしイエス様がここにおられたら、そうしたら何の問題もないのに。」、本当にもしイエス様がおられるなら、問題はないのでしょうか。もちろんラザロにとっては、主がおられれば、何の問題もありません。病もすぐ治ったでしょう。しかし、それはイエス様の御心ではなかったのです。ですからイエス様は、すぐにラザロのもとに来ませんでした。心の中では、3人の兄弟姉妹をあわれみ、泣いておられましたのに、イエス様は、一刻も早くラザロを助けたかったんですけど、父なる神の御心は違うところでした。ですからすぐにはラザロのもとに、おいでになりませんでした。

ラザロが、イエス様のよみがえりの力を体験するには、まず死を通らなければならなかったからです。我々の信仰生活におきましても、イエス様は同じような導き方をされるのではないのでしょうか。恐ろしい自分を愛する愛と、イエス様を愛する愛とは、共にあることはできません。

また自分の名前を人に知ってもらおうというような気持ちと、イエス様に対する真の奉仕は、両立しません。己の考えと計画も、これら一緒に死に渡されなければ、よみがえりの力を自分のものにすることができないのです。

我々の信仰生活には、色々、思いがけないことが起こります。そうすると一体どうしてだろう、なぜでしょうと考えます。しかし、それも乗り越え、見えない所を信仰によって希望を抱く、前進しますが、その結果は思いがけない悲劇に終わることもあるのです。すべてを主に委ねて進んでも、何の変化も起きてこないことが大いにあります。

信仰によって歩み、絶望し、その絶望の中から小さな光を見つけ、それに取りすがり、何とかして浮かび上がろうとしますが、打ちのめされて全く絶望してしまいます。自分はどうダメだ。自分の前には死が待っている、墓が待っているだけだとさえ思うこともあるでしょう。

そこにまで、主が我々をお導きくださる時、そうやって初めて絶望した時初めて、イエス様は我々をしっかりと握ってくださいます。

それは一体どういうわけでしょうか。それはイエス様は、我々を通してよみがえりの力を現したいからです。これは理論でも説教でも、また特別な教えでもなく、主の御心です。私たちの生活は、イエス様の証しのためでなければいけません。よみがえりの力の証しでなければいけません。

しかし、私たちは主の御心は、死ではなくいのちである。しかし、このいのちは死を通して初めてやって来るといふ所に目を留めなければなりません。

前に読んでいただきましたヨハネの福音書12章2節に「主イエスといっしょに食卓についていた者のうちに、ラザロも加わっていた。」とあります。

結論として、このベタニヤの証しの力を考えてみましょうか。聖書は、よみがえらされたラザロが、何かをしやべった、証ししたと書いてないのです。このラザロは、別段、説教者ではなかったんです。

けれど、このヨハネの福音書12章9節から11節には、驚くべきラザロの証しが書かれています。ラザロは、口で証しをしなかったようです。よみがえらされた生きたいのちで証しました。

よみがえりの力で生活するとは、いったいどういうことでしょうか。「主よ。あなたが召してくださったご奉仕に力がありません。私は何一つできません。この奉仕をするのはあなたでなければダメ。私を導き、力を与えてください。」という全く自分の無力を認めた生活がそれなのです。

すなわち、生まれながらの力、人間の知恵で送る生活ではなく、全く主に拠り頼む生活こそ、よみがえりの力による生活への道であります。

ゼパニヤ3:17 あなたの神、主は、あなたのただ中におられる。救いの勇士だ。主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、その愛によって安らぎを与える。主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。

The Lord your God is with you, the Mighty Warrior who saves. He will take great delight in you; in his love he will no longer rebuke you, but will rejoice over you with singing." N I V ZEPHANIA 3:17

ペテロ5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです

1 Peter 5:7 Cast all your anxiety on him because he cares for you.